

# 平成22年度（第11期）事業報告書

## 目 次

事業記録	.....	2
事業の内容	.....	5
1 研究事業	.....	5
2 研究助成事業	.....	10
3 請負調査・委託業務等	.....	12
4 広報・啓発活動	.....	14
5 業 績	.....	24
6 研究所利用者	.....	31
7 寄附等	.....	32

## 第 1 1 期 事業報告

### 事業記録

日付	件名	備考(主催者・場所等)	担当
平成 4 月 10-11 日	周防大島アワサング調査	山口県周防大島町	岩瀬・目崎
22 年 16 日	佐藤研究員赴任		
17 日	大阪湾海岸生物研究会 定点調査	和歌山市～大阪府岬町	今原
25 日	CURRENT Vol. 11, No. 1 発行		中地
29 日	大阪湾海岸生物研究会 定点調査	和歌山市～大阪府岬町	今原
5 月 5-6 日	夜須オニヒトデ調査	香南市	岩瀬
7-12 日	黄海海洋生物調査	水産大学校科研費	今原
10 日	戸島公民館市民講座	宇和島市(戸島小学校)	中地
11 日	梨花女子大学 自然史博物館所蔵 八放サンゴ類標本調査	Seoul, 韓国	今原
15 日	大阪湾海岸生物研究会 定点調査	和歌山市～大阪府岬町	今原
18 日	天皇海山トロール漁場環境等調査 ～7月9日まで	水産庁開洋丸第1次調査航海	今原
21 日	高知県地球温暖化防止県民会議総会	高知市	岩瀬
21 日	「生物多様性交流フェア」出展打合せ	高知市	岩瀬・佐藤
22-23 日	リーフチェック in 宍喰	徳島県海陽町(あど未来主催)	岩瀬
29 日	黒潮実感センター理事会・総会	高知県大月町	岩瀬
6 月 2 日	平成 22 年度第 1 回通常評議員会	黒潮生物研究所	岩瀬・長岡
3 日	サンゴ産卵調査開始 ～9月2日まで	黒潮生物研究所前の湾	目崎
9 日	平成 22 年度足摺宇和海保全協議会総会	宿毛市文教センター	岩瀬・中地・長岡
10 日	Bishop Museum 所蔵 八放サンゴ類標本調査	Honolulu, Hawaii	今原
12 日	環境の杜こうち総会	高知市	岩瀬
14 日	研究船「つきなだ」ドック ～7月6日まで		田中
19 日	BSAC 国際サンゴ礁保全会議	京都市(BSAC パンパシフィック主催)	中地
21-24 日	2nd Asia Pacific Coral Reef Symposium	Phuket Town, タイ	岩瀬
28 日	平成 22 年度第 1 回通常理事会	大阪市	岩瀬・長岡
29 日	海辺の探索ガイド養成講座	香南市(香南市地域雇用創造協議会主催)	岩瀬
30 日	愛南町立内海中学校 海学習 (事前学習)	愛媛県愛南町(内海中学校)	中地
7 月 1 日	土佐清水市立三崎小学校 環境学習	土佐清水市(三崎小学校)	中地
3 日	日本応用藻類学会春季シンポジウム	東京都(東京海洋大学)	田中
7-8 日	大月町立大月中学校職場体験	黒潮生物研究所	
10 日	足摺宇和海国立公園 大月地区パークボランティアの会 総会	大月エコロジーキャンプ場 ボランティア棟	岩瀬
13 日	大月町立大月小学校 1 年生自然学習	黒潮生物研究所	中地・田中
16 日	愛南町立内海中学校 海学習 (モニタリング実習)	愛媛県愛南町(内海中学校)	中地・田中
18-19 日	海の学校 in 牟岐大島	徳島県牟岐町(徳島県職労組合主催)	岩瀬
19 日	牟岐大島サンゴ食巻貝調査	徳島県牟岐町(カイクネイチャーネットワークより依頼)	岩瀬
25 日	CURRENT Vol. 11, No. 2 発行		中地
27 日	土佐清水市立三崎小学校 環境学習	土佐清水市(爪白海岸)	中地
8 月 3 日	竜串産卵観察会	土佐清水市竜串(竜串観光振興会・黒潮生物研究所主催)	中地・目崎

日付	件名	備考(主催者・場所等)	担当
6-8日	第9回黒潮生物研究所サマースクール ～きみも小さな研究者～	黒潮生物研究所:財団主催事業	
7-9日	和歌山県白浜町の海岸生物調査	大阪湾海岸生物研究会合宿	今原
10日	夜須生き物観察会	香南市(YASU 海の駅クラブ主催)	中地
10-13日	ソフトコーラル同定ワークショップ	京都大学瀬戸臨海実験所(韓国梨花女子大と合同)、和歌山県白浜町	今原・岩瀬
30日	朝日放送ラジオ「おはようパーソナリティ道上洋三」 出演	大阪市	岩瀬
9月 2日	サンゴ産卵調査終了	黒潮生物研究所前の湾	目崎
12日	周防大島アワサンゴ調査	山口県周防大島町	岩瀬・目崎・佐藤
13-17日	4th East Asian Federation of Ecological Societies International Congress	韓国尚州市(Kyungpook 大学)	田中
15日	「高知自然学校構想」策定のための地域ブロック会	四万十市(高知県教育委員会主催)	岩瀬
22日	愛南町立内海中学校 海学習 (ロングツーリング及びモニタリング)	愛媛県愛南町(内海中学校)	中地
30日	土佐塾中学校 修学旅行への協力(講演)	土佐清水市	田中
10月 1-4日	第6回日本刺胞・有櫛動物研究談話会	沖縄県西原町	岩瀬・今原
6日	第2回生物多様性の保全に関する 情報共有のための円卓会議	高知市(環境省中国四国地方環境事務所)	岩瀬
6日	土佐塾中学校修学旅行への協力(講演)	土佐清水市	田中
11-29日	COP10 関連屋外展示イベント 「生物多様性交流フェア」出展	名古屋市(四国 CBD ネットメンバーとして)	佐藤・岩瀬
12日	土佐清水市観光ガイド レベルアップ研修	土佐清水市(土佐清水市観光ボランティア会主催)	中地
12日	高知県地球温暖化防止県民会議 第2回県民部会	高知市	岩瀬
18-20日	五島諸島近海トロール調査航海	長崎大学長崎丸 第316次航海	今原
20-27日	黒島研究所スポットチェック調査・インサンゴ類標本目録出版準備	沖縄県竹富町(日本ウミガメ協議会附属黒島研究所)	目崎
22-24日	クラゲ研究会佐世保大会	佐世保市(佐世保九十九島水族館・クラゲ研究会共催)	今原
25日	CURRENT Vol. 11, No. 3 発行		中地
11月 1日	環境の杜こうち「えこらぼ部会」	高知市	岩瀬
6-7日	4th International Symposium on Kuroshio Science	高知市(高知大学)	田中
6-7日	竜串リーフチェック	土佐清水市竜串(竜串観光振興会・黒潮生物研究所主催)	中地
15-19日	京都大学瀬戸臨海実験所収蔵標本 GBIF 登録作業	和歌山県白浜町	岩瀬・今原
21日	全国生涯学習フォーラム高知大会 まなびピア高知 2010 環境フォーラム	高知県黒潮町(全国生涯学習フォーラム高知大会実行委員会)	岩瀬
27日	珊瑚がサンゴを救う! SAVE coral reefs プロジェクト 2010	高知市(Sea Proof 主催)	岩瀬
27日	森川海つながり再発見 人編(塩作り)	四万十市(四万十楽舎主催)	田中
12月 2-4日	日本サンゴ礁学会第13回大会	つくば市	中地・目崎・佐藤
4日	森川海つながり再発見 海編(スジアオノリの観察)	四万十市(四万十楽舎主催)	田中
9日	第1回サンゴ礁生態系保全行動計画 フォローアップ会議準備会	東京都(環境省・自然環境研究センター)	岩瀬
12日	ワークショップ「21世紀の生物多様性研究」	東京都(GBIF 国内ノード主催)	今原
12-14日	東京大学三崎臨海実験所所蔵 八放サンゴ類の概況調査	三浦市	今原
18日	四国海の守り人交流会「四国の海はいま...」	高知市:財団主催事業	

日付	件名	備考(主催者・場所等)	担当
21日	平成22年度GBIF検討会	大阪市立自然史博物館	今原
26-29日	山口県沿岸海洋生物調査	水産大学校科研費	今原
平成23年 1月 11-14日	京都大学瀬戸臨海実験所収蔵標本GBIF登録作業	和歌山県白浜町	岩瀬・今原
15日	えこらぼの文化祭「海の温暖化」パネル展出展	高知市(環境の杜こうち主催)	岩瀬・長岡
18日	全漁連環境・生態系保全活動指導員 訪問指導	宿毛市(宿毛湾環境生態系保全協議会)	岩瀬
20日	牟岐町大島スポットチェック調査	徳島県牟岐町(クラブノアむぎ)	岩瀬
20-21日	高知県立四万十高等学校 自然環境コース1年生校外学習	黒潮生物研究所	中地・田中
21日	竹ヶ島海中公園自然再生協議会 専門委員会	徳島市	岩瀬
22日	四国地区ウミガメ情報交換会	徳島市(日本ウミガメ協議会・環境省生物多様性センター主催)	岩瀬・田中
25日	CURRENT Vol. 11, No. 4 発行		中地
26日	全漁連環境・生態系保全活動指導員 訪問指導	延岡市(島野浦サンゴ礁保全会)	岩瀬
28日	竜串自然再生協議会 幹事会準備会	土佐清水市	岩瀬・中地
29-30日	ソーレ祭り「海の温暖化」パネル展出展	高知市(こうち男女共同参画社会づくり財団主催)	中地
2月 4日	第3回生物多様性の保全に関する 情報共有のための円卓会議	高松市(環境省中国四国地方環境事務所)	岩瀬
8-9日	竜串自然再生協議会 専門家技術支援委員会	土佐清水市	岩瀬・中地
9日	竜串自然再生協議会	土佐清水市	岩瀬・中地
11日	幡多の研究発表会「はたのおと」	宿毛市(持ち寄り地図ネットワーク等主催)	岩瀬
15日	モニタリングサイト1000(沿岸域調査)サンゴ礁検討会	東京都(環境省・自然環境研究センター)	岩瀬・目崎
18日	「高知自然学校構想」意見交換会	高知市(高知県教育委員会主催)	岩瀬
20日	蔦瀧湾再生プロジェクト事業公開講座	宇和島市(こもねっと主催)	中地・田中
24日	第2回サンゴ礁生態系保全行動計画 フォローアップ会議準備会	東京都(環境省・自然環境研究センター)	岩瀬
3月 2日	竹ヶ島海中公園自然再生協議会 専門委員会	徳島県海陽町	岩瀬
2日	竹ヶ島海中公園自然再生協議会	徳島県海陽町	岩瀬
3日	平成22年度第2回通常理事会	大阪市	岩瀬
3日	平成22年度助成研究発表会	堺市(ステラケミファ堺工場会議室)	岩瀬・長岡
15日	竜串自然再生協議会 第1回幹事会	土佐清水市	岩瀬・中地
19日	サンゴ保全・再生シンポジウム ～ふたたびサンゴが広がる海へ～	大阪市(環境省中国四国地方環境事務所主催)	岩瀬
22日	平成22年度第2回通常評議員会	黒潮生物研究所	岩瀬・長岡
26-28日	日本藻類学会第35回大会	富山市(富山大学)	田中
31日	Kuroshio Biosphere Vol. 7 出版		目崎

## 事業の内容

### 1 研究事業

#### (1) 造礁サンゴ類に関する研究

##### ○四国沿岸の造礁サンゴ類の分布、加入、攪乱状況の調査

平成 16 年度より継続。東海大学との共同研究。足摺宇和海海域を中心にスポットチェック法およびその他の手法を用いて造礁サンゴ類およびサンゴ食生物の分布状況、その他の攪乱要因の状況を記録している。

今年度は例年通り、モニタリングサイト 1000 四国南西部調査定点および周辺の地点、地元団体等との連携による高知県奈半利町海域、徳島県海陽町竹ヶ島海域、徳島県牟岐町大島海域で調査を行ったほか、2005 年以来中断していた高知県香南市夜須町大手の浜地先および愛媛県宇和島市海域でスポットチェック法による調査が実施された

全体として、サンゴの被度が前年度から 15%以上増加した地点は1カ所、15%以上減少した地点も1カ所で、ほとんどの地点で被度や生育型に大きな変化はなかった。また、今年度は8月末から9月上旬にかけて29℃を超える高水温が続き、牟岐大島を除くすべての調査海域で白化が確認された。2008年度は足摺宇和海を中心に広域で白化が確認されたが、2010年度は2008年度にくらべて白化の範囲が北に広がる傾向にあった。今年度は宇和海と徳島県竹ヶ島海域を除き四国のほぼ全域でオニヒトデが出現した。中でも徳島県牟岐町大島、高知県の足摺岬から沖ノ島にかけての海域で大発生状態が続き、この海域では造礁サンゴが大きな被害を受けている。サンゴ食巻貝もすべてのサイトで確認されている。今のところ大きな被害は出ていないが分布範囲や分布密度は拡大の傾向にあり、今後の動向を注視する必要がある。

本調査は環境省のモニタリングサイト 1000 事業、高知県土佐清水市の竜串自然再生事業、徳島県海陽町の竹ヶ島海中公園自然再生事業、宿毛湾環境保全連絡協議会の環境・生態系保全事業、みんなの海を育てる会の環境・生態系保全事業、足摺宇和海保全連絡協議会の環境保全活動、環境省のマリンワーカー事業、環境省の足摺宇和海国立公園海域景観資質調査などの事業、および財団独自の業務として行われた。

##### ○研究所地先におけるサンゴ類繁殖生態に関する研究

平成 14 年度より継続。造礁サンゴの産卵盛期である 6 月 3 日から 9 月 2 日まで、夜間及び早朝等に潜水して、研究所地先に生息するサンゴの産卵状況を観察した。今年度は初記録種を含む 6 科 19 属 41 種の産卵を確認し、研究所地先における造礁サンゴのうち、産卵が確認された種数は 50 種になった。今年度 *Acropora* (ミドリイシ) 属で産卵が観察されていなかった 2 種について観察されたことで、研究所地先に生息する *Isopora* 亜属を除くミドリイシ属全種の産卵が確認された。

これらの情報はサンゴ類の生活史を知る上で最も基礎的な情報のひとつであり、サンゴの種苗生産にとっても有用であり、後述の造礁サンゴ分類研究にとっても重要な情報が得られることから、平成 23 年度も継続する。

##### ○造礁サンゴの種苗作成技術の開発

平成 10 年度より継続。今年度は大きな技術的変更は行わず、昨年度考案した渦巻き状着生板ラックが使いにくいと不評だったので、はじめから串ざし状態でセットできるラックを考案した。また、これまで使用してきたフレキシブルボードによる着生板に加えテラコッタおよび瓦製の着生板を試作して着生試験を行った。今年度は予備的な実験に留まったが、フレキシブルボードに比べて着生の嗜好性に大きな違いはないように見受けられた。これらの研究の一部は、竜串自然再生および竹ヶ島海中公園自然再生の事業とし

て実施された。

また、今年度はじめて大月町水産種苗センターの設備によってニホンミドリインの種苗育成試験を行ったところ、当初予定していた設備を一部見直すことによって研究所と同様に良好な育成が見られたことから、次年度以降、研究所で蓄積された技術を移転して、産業化を視野に入れた大規模な種苗生産へと移行できる可能性が開けた。本研究は宿毛市および大月町で実施されている宿毛湾環境保全連絡協議会による環境・生態系保全活動に対する協力事業として実施された。

#### ○四国の造礁サンゴ相に関する研究

研究所が開所した 2001 年度以来継続している研究。四国沿岸にどのように造礁サンゴ類が分布しているのか、現状と変化について調査している。今年度は新たに宇和島市周辺海域において現地調査を行ってサンゴ相を調べ、足摺宇和海海域の過去の文献の記載や愛媛県総合科学博物館に収蔵されている歴史的標本群等の調査を行い、分布の北限域のサンゴ群集に関するいくつかの新しい知見が得られた。これまでに四国から 16 科 49 属 137 種の造礁サンゴ類を記録した。

本研究の一部は環境省中国四国地方環境事務所の足摺宇和海国立公園海域景観資質調査として、また、高知大学黒潮圏総合科学専攻との共同研究として実施された。

#### ○造礁サンゴ類の分類に関する研究

平成 20 年度に発足した「日本造礁サンゴ分類研究会」における取り組みに参加。国内外の研究者と連携し、黒潮生物研究所で得られる四国の造礁サンゴの産卵生態に関する知見や交配実験結果、骨格や組織の微細構造などの情報と、他の研究機関等から得られる分布の情報や DNA 解析結果などを総合的に検討して、特に温帯域に分布する造礁サンゴ類の分類について再検討を行っている。

### (2) 造礁サンゴ類の食害生物に関する研究

#### ○四国沿岸におけるオニヒトデの分布に関する研究

四国沿岸で行われているサンゴ保全活動に資するため、既存資料調査、現地調査、聞き取り調査等を行い、幅広い情報を収集・整理し、四国沿岸におけるオニヒトデの分布状況およびその変化を明らかにした。特に足摺宇和海海域では複数の機関による駆除事業および複数の団体によるボランティア駆除などが行われており、当財団が全てに関わることで情報を集約することで全体の状況の把握に努めた。

オニヒトデ分布の概況については「四国沿岸の造礁サンゴ類の分布、加入、攪乱状況の調査」の項で既にまとめた。今年度、徳島県牟岐町大島、高知県室戸市、香南市夜須町、高知県土佐清水市足摺岬西岸から宿毛市沖ノ島にかけての海域、愛媛県愛南町の海域で駆除活動が行われている。

なお、この研究の一部は環境省のマリンワーカー事業、水産庁交付金による環境・生態系保全事業の一環として実施され、各事業において適切な保全活動が行われるように指導や助言を行った。

#### ○薬剤注射によるオニヒトデの駆除手法の検討

オニヒトデの駆除は、従来ダイバーにより 1 匹ずつ捕獲し、陸揚げして焼却または埋設されるのが一般的である。しかしオニヒトデに密生する棘には強い毒があり、駆除作業に従事するダイバーや作業員の刺傷が後を絶たない。また、陸揚げされたオニヒトデの処分に高額な費用がかかること、県によってはオニヒトデの駆除に特別採捕の許可が必要であるなど、さまざまな問題点が指摘されている。

これらの問題点の多くを解決する手段として、薬剤注射によるオニヒトデ駆除法があり、注射による駆除は薬品の安全性や注射に用いる器具の価格や利便性が高ければ高い効果が得られる可能性があるが、これまでのところ決め手となる手法は確立できていない。

本研究は、薬物注射を用いた安全・安価で十分なオニヒトデ駆除効果を上げられる手法の確立を目

的として平成 21 年度から、効果的な器具や安全で効果の高い薬剤の選定、最適な薬剤濃度や注入量の検討を実施するとともに、実用化に向けた試験を岡山理科大学と共同で実施した。

その結果、動物用連続注射器を使用し、10～20%程度の酢酸をオニヒトデ 1 個体あたり 10～20ml 注入することで、実用上十分な駆除効果が得られることがわかり、実用化に向けためどが立った。

なお、今年度の実験の一部は環境省のマリンワーカー事業として実施され、次年度は、増粘に関する追加実験を予定している。

### (3) 海藻に関する研究

#### ○高知県における藻場の分布および変化に関する研究

平成 20 年度より継続。高知県沿岸の藻場の種組成・水平分布・面積を明らかにし、過去の分布状況と比較して変化を明らかにする研究。今年度は、若干の補完調査と、高知県全体の藻場面積の変化の解析を行った。

その結果、高知県では、温暖と言われる西南部のみならず土佐湾中央部においても南方系のホンダワラ類であるフタエモクが藻場を構成していて、フタエモク藻場の中には、ツクシモクやアツバモクなど他の南方系の種が混在していた。また、室戸岬周辺のカジメ類の藻場はさらに大きく衰退したが、海洋深層水の排水場所ではカジメ類が良好に生育していた。現在の高知県沿岸の藻場の総面積は 344ha で、30 年前(約 1,500ha)、10 年前(約 1,000ha)と比較すると、大きく減少したことが明らかになった。

#### ○ホンダワラ類の群落構造に関する研究

平成 20 年度より継続。上記調査において高知県沿岸のホンダワラ類藻場（ガラモ場）が近年大きく変化していることが明らかになったため、ガラモ場の群落構造を水平的、垂直的、季節的な視点から詳細に調査・検討し、環境の変化がガラモ場の群落構造に与えた変化の内容について検討した。また、高知県で分布を拡大するフタエモクと、同じく分布を広げる造礁サンゴ類との住み分けについて、今後の研究を発展的に進めていくためのデータ解析を行った。

その結果、高知県で分布を拡大している南方系ホンダワラ類であるフタエモクの藻場は潮間帯から斬深帯上部の比較的浅い海底にベルト状の藻場を形成し、温帯種が優占する藻場は潮間帯付近の浅場にヒラネジモク、斬深帯上部にトゲモク、下部にヨレモクモドキといった層構造を持つ藻場が形成されていた。温帯種が優占していた約 30 年前と比べると藻場の面積は大きく減少しているが、この減少の原因の1つとして温帯種による広い層構造を持つ藻場から南方種による狭いベルト状の藻場へ変化したことが考えられた。また、フタエモク藻場ではベルト状の藻場と同じ水深から深所に向かってミドリイシ類などで構成された造礁サンゴ群集が発達している傾向が見られた。

#### ○ウニの生息密度と海藻類の生育との関係に関する研究

平成 20 年度より継続。磯焼け状態の橘浦の磯において、ウニの生息密度を抑えることによって海藻類の生育状況が改善されるかどうかを明らかにする研究。橘浦湾奥浅所の試験海域において、ウニの生息密度を下げると海藻類が繁茂することが判明し、橘浦ではウニ除去の範囲を広げることにより、海藻類が生育する藻場を拡大できる可能性が高いと判断された。

#### ○ヒロメの種苗作成技術および藻場造成に関する研究

平成 19 年度より継続。既存のヒロメ群落内に設置したロープや網などを使った採苗装置により採苗し、海域で種苗を育成してウニ駆除を行った目的海域に移植することによって、3 年連続でヒロメ藻場が拡大させることができた。着生基質を検討した結果、φ 4mm の網地よりも φ 30mm のロープの方がヒロメ種苗の生残率が高く、採苗装置に適していることが明らかになった。また、平成 21 年度に培養したヒロメの雄性配偶

体 10 株、雌性配偶体 6 株をインキュベータ内で継続維持しており、必要に応じて孢子体を形成させることができるかどうかの試験を行う予定である。

なお、藻場拡大によって生育したヒロメは、生育量調査を行った後に収穫し、橘浦漁業によって大月町内の道の駅開催された試食イベントにより配布したところ、好評を得た。橘浦漁協ではヒロメ藻場をさらに拡大して収穫・販売を計画している。

#### (4) 八放サンゴ類に関する研究

##### ○各地に保存されている日本産八放サンゴ類の歴史的標本の整理及び再記載に関する研究

日本を含む世界各地の博物館等に保存されている日本産八放サンゴ類の標本には、未整理・未記載のもの、不完全な原記載以来再記載されていないものなどが多数あり、機会を見つけてこれを整理し、再記載等を行っている。今年度は韓国梨花女子大学自然史博物館・米国ハワイ州 Bishop Museum・京都大学瀬戸臨海実験所・東京大学三崎臨海実験所の標本について調査と記録を行った。

##### ○日本産八放サンゴ類相に関する研究

日本及び日本近海に生息する八放サンゴ相を明らかにするため、各地で採集し、あるいは研究協力者により採集された八放サンゴ類について分類学的検討を加えている。今年度は愛媛県上島町・山口県下関市・長崎県外海部・日本海・東シナ海・熊本大学天草臨海実験所周辺・天皇海山などで採集された標本について検討した。

##### ○京大瀬戸臨海実験所収蔵標本の GBIF (Global Biodiversity Information Facility) 登録への協力

平成 20 年度より継続。昨年度に引き続き、京大瀬戸臨海実験所に収蔵されている八放サンゴ標本の GBIF 登録に協力した。今年度は 11 月および 1 月に作業を行い、収蔵標本の全部について整理し、登録可能な標本を GBIF に登録する事ができた。京都大学瀬戸臨海実験所が行っている事業は今年度で終了だが、さらに分類学的検討を加える必要がある標本が多数あり、研究は継続される予定。

#### (5) その他の調査研究等

##### ○周辺地域の動植物相に関する調査研究

研究所が進めている周辺地域の動植物相を明らかにするため調査研究活動の一環として、今年度は海藻・海草類全般、刺胞動物門造礁イシサンゴ類、棘皮動物門全般に重点を置いて標本を収集・整理し、分類学的検討を加えて保存した。

また、琉球大学大学院に在籍中の中野理枝氏を招聘して大月町海域のウミウシ相調査を実施した。この調査は次年度初夏まで継続する予定。

##### ○黒潮生物研究所収蔵標本の GBIF 登録

平成 21 年度から黒潮生物研究所に収蔵されている無脊椎動物の収蔵標本の GBIF 登録に取り組んでいる。平成 21 年度は刺胞動物門ヤギ目 288 点、イシサンゴ目 290 点の 578 点を登録したが、今年度は刺胞動物門イシサンゴ目 25 点、軟体動物門 115 点、節足動物門ウミグモ類 4 点、節足動物門甲殻類 45 点、棘皮動物門 177 点の合計 366 点を登録し、黒潮生物研究所収蔵標本の GBIF 登録点数は合計で 944 点になった。

#### (6) 研究協力

平成 22 年度は、高知大学大学院黒潮圏総合科学専攻、東海大学海洋学部および海洋研究所、近畿大学農学部環境管理学科、岡山理科大学工学部バイオ・応用化学科、日本ウミガメ協議会附属黒島研究



所、台湾中央研究院生物多様性研究中心、韓国梨花女子大学自然科学部 EcoScience 学科などと共同研究や研究協力をおこなった。成果の上がったものから、論文等の業績として公表する。

## 2 研究助成事業

次世代の研究者、地域と密着した研究者の育成を図ることを目的として、平成 22 年度も下記の要領で研究助成事業を継続した。

○助成の対象：黒潮生物研究財団設立の目的に添う研究であれば、研究の実施場所や研究分野は問われないが、営利を目的とするものは対象としない。

○応募資格：大学卒論生、研究生、専攻科生、大学院生、その他の研究者。

○助成対象となる費用：実験や調査に使用する器具費、材料費、調査に必要な旅費、施設や設備の使用料など、直接研究に必要な費用。

○助成規模：1 件につき 20 万円以内。4～5 件程度。

○助成期間：平成 22 年 4 月 1 日から、助成者の希望により 1～3 年間。

○応募方法：所定の申請書に必要事項を記入し、当財団宛に郵送。

○選考方法：当財団の理事及び評議員の審査により、専務理事が採否を決定。

○助成をうけた者の義務：

- ・ 所定の様式により、研究成果の概要について報告書を提出。
- ・ 助成研究の成果を公表する場合には、財団の助成を受けたことを明記。出版された論文等は、1 部を財団宛に送付。
- ・ 財団の主催する講演会において、研究成果について講演する。

以上の要項により助成研究を募集したところ、過去最多となる 22 件の応募があり、選考の結果、以下の 6 件の研究に助成金を交付した。

・ 齊藤 宏 (東京都立新宿山吹高校)

「可視、近赤外面像によるサンゴ健康度モニタリング手法の開発」

・ 田中隼人 (静岡大学大学院)

「砂のすきまに潜む「生きた化石」貝形虫類の分布と分散経路の解明」

・ 島山えり子 (東海大学海洋研究所研究生)

「日本沿岸に生息するエダミドリイシ集団の遺伝的特性の解明」

・ 広瀬雅人 (北海道大学研究員)

「四国黒潮流域における大型コケムシ群集の多様性と群集構造の変化」

・ 藤田純太 (京都大学大学院)

「川と海を回遊するエビ類における黒潮の分布障壁機能

～高知県仁淀川と沖縄本島間の地理的隔離～」

・ 優谷真理 (東京大学大学院)

「日本周辺海域に生息するアカウミガメ、アオウミガメの受けている物理的ストレスの評価」

サンゴのモニタリング手法に関する研究が 1 件、サンゴの生物学的研究が 1 件、その他の生物に関するものが 4 件となった。なお、昨年度 2 年間の研究として助成を行った、以下の 2 件の研究

・ 岡本 慶 (東京大学大学院)

「クロウミガメの出現記録の整理と黒潮流域のアオウミガメとの形態比較」

・ 長谷川亮太 (東海大学大学院)

「四国西南海域における造礁サンゴの幼生加入に及ぼす付着生物の影響」

についても、平成 22 年度末までに助成期間を終了した。

平成 23 年 3 月 3 日にステラケミファ株式会社三宝工場(大阪府堺市)会議室において助成研究報告会を催し、財団理事及び評議員、ステラケミファ株式会社研究部の社員を中心に 20 数名の前で、8 名の助成者に研究成果について発表してもらった。これらの助成研究成果の概略は、財団のホームページ([http://kuroshio.or.jp/set\\_osirase.htm](http://kuroshio.or.jp/set_osirase.htm))で公開している。

### 3 請負調査・委託業務等

平成 22 年度は、以下の 10 件の業務を受託または請け負った。

#### ○香南市手結地区オニヒトデ分布状況調査委託業務(商第22005号)

契約先:香南市

契約期間:平成 22 年 5 月 1 日～5 月 20 日

内 容:香南市夜須町手結地区でオニヒトデが発生しているとの情報があり、分布の現況について調査を行う。

#### ○平成 22 年度マリンワーカー事業(オニヒトデ駆除手法調査事業)

契約先:環境省中国四国地方環境事務所

契約期間:平成 22 年 7 月 1 日～平成 23 年 3 月 11 日

内 容:安全・安価で効果的な薬剤の注射によるオニヒトデの駆除法の開発

#### ○平成 22 年度マリンワーカー事業(足摺地域オニヒトデ等駆除事業)

契約先:環境省中国四国地方環境事務所

契約期間:平成 22 年 7 月日～平成 23 年 3 月 11 日

内 容:足摺宇和海国立公園の高知県沿岸におけるボランティアによるオニヒトデ等サンゴ食害生物駆除

#### ○平成 22 年度環境生態系保全活動モニタリング調査及び進行管理委託業務

契約先:宿毛湾環境保全連絡協議会

契約期間:平成 22 年 4 月 22 日～平成 23 年 3 月 18 日

内 容:水産庁からの交付金によるオニヒトデ駆除事業のためのモニタリング調査および進行管理業務、および造礁サンゴ種苗生産技術の開発と作製した種苗によるサンゴ移植の実施に関する指導

#### ○平成 22 年度竜串地区自然再生事業海域調査業務

契約先:環境省中国四国地方環境事務所

契約期間:平成 22 年 8 月 11 日～平成 23 年 3 月 22 日

内 容:竜串自然再生のためのモニタリング調査、および造礁サンゴ種苗生産、放流技術確立のための試験

#### ○平成 22 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務

契約先:財団法人自然環境研究センター(環境省生物多様性センター)

契約期間:平成 22 年 7 月 23 日～平成 23 年 2 月 25 日

内 容:四国南西部沿岸における造礁サンゴ群集のモニタリング調査

#### ○平成 22 年度足摺宇和海国立公園海域景観資質(サンゴ)調査業務

契約先:環境省中国四国地方環境事務所

契約期間:平成 22 年 9 月 17 日～平成 23 年 3 月 15 日

内 容:足摺宇和海国立公園および周辺海域、特に宇和島市海域において海域公園として指定するに値する良好な海域景観を持つ海域の検索、および海域生物生息状況の調査

#### ○H22自 竹ヶ島海中公園海陽 自然再生事前調査

契約先:ニタコンサルタント株式会社(徳島県)

契約期間:平成 22 年 6 月 25 日～平成 23 年 3 月 25 日

内 容:竹ヶ島海中公園自然再生におけるモニタリング調査、及びサンゴ増殖技術確立のための試

験

○四国西南部周辺海域の造礁サンゴ群集調査および遺伝子解析環境整備業務

契約先:高知大学

契約期間:平成23年1月11日～平成23年3月31日

内容:海洋温暖化によって激しく変化している四国沿岸の生態系を、造礁サンゴ群集の変化として捉えるための調査と、黒潮生物研究所を造礁サンゴ及び共生藻の遺伝子解析を行う拠点とするための環境整備

○高知の海の温暖化影響啓発事業

事業主体:NPO 法人環境の杜こうち(平成22年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金事業)

実施組織:黒潮プロジェクトチーム(財団法人黒潮生物研究財団等)

事業内容:高知県沿岸海域における海洋温暖化の影響についてわかりやすく解説する10枚組のパネル(1. 高知の海の温暖化、2. 磯焼けによる藻場の減少、3. ホンダワラ類の藻場における熱帯種の分布拡大、4. 造礁サンゴの分布拡大と種の変遷、5. オニヒトデの大発生、6. 高水温に伴うサンゴの白化現象、7. 温暖化に伴う大雨の増加とその影響、8. 魚類相の変化、9. 温暖化で高知の漁業はどう変わる?、10. 海の温暖化にどう向き合うべきか)を5組作製し、環境活動支援センターえこらぼ、高知県森林総合センター情報交流館、黒潮生物研究所の3ヶ所に配置、2組は黒潮生物研究所に保管して要請に応じて貸し出す。

## 4 広報・啓発活動

### (1) 機関誌「CURRENT」出版

平成 22 年 4 月 25 日に Vol. 11, No. 1 (通巻 40 号)、7 月 25 日に Vol. 11, No. 2 (通巻 41 号)、10 月 25 日に Vol. 11, No. 3 (通巻 42 号)、平成 23 年 1 月 25 日に Vol. 11, No. 4 (通巻 43 号) の 4 回出版した。内容については業績の項を参照されたい。平成 23 年 1 月現在、西泊地区全戸および日本国内 203 ヶ所に発送している。

### (2) 学術誌「Kuroshio Biosphere : Bulletin of the Biological Institute on Kuroshio」出版

平成 23 年 3 月 31 日に第 7 巻を出版し、財団が琉球大学大学院に在籍中の中野理枝氏を招聘して実施した大月町海域のウミウシ相調査結果の第一報ほか 3 編の論文を掲載した。詳細については業績の項を参照されたい。国内 132 ヶ所、国外 95 ヶ所の教育機関・研究機関等に発送した。



### (3) 財団ホームページ上での情報公開

平成 14 年度より、財団ホームページ (<http://www.kuroshio.or.jp>) 上に情報公開のページを設け、事業報告、決算報告と事業計画、収支予算書、役員・評議員・職員名簿等を公開している。また、ホームページには寄附の募集、助成研究の募集、研究所の利用に関する情報、出版物に関する情報などを掲載・更新している。機関誌 CURRENT については総目次を、学術誌 Kuroshio Biosphere については総目次と出版から 1 年を経過した巻の内容の pdf 版による閲覧とダウンロードができるようにしており、財団の業績一覧や職員採用などの情報も掲載して、財団の活動や成果の広報に努めている。なお、研究所周辺の出来事や自然の様子などについては、ホームページからリンクしているブログで紹介している。

#### ○ブログ

平成 17 年 5 月に開始した財団ブログ (<http://kuroshio.blog.ocn.ne.jp/>) に、今年度もサンゴの産卵情報を中心に新着の話題をタイムリーに提供した。夏のピーク時には 100 件/日に達するほど好評を得ている。ブログの開始から平成 22 年 3 月末までに約 95,300 件、今年度 1 年間で約 23,000 件の閲覧があり、情報発信力は非常に高い。

### (4) 黒生研ニュースの配信

平成 16 年 10 月から配信をはじめた電子メールによる黒生研ニュースは、平成 22 年度には 4 月 3 日、6 月 1 日の 2 回配信したほか、単発の情報メールを、12 月 13 日、平成 22 年 2 月 8 日、2 月 21 日の 3 回配信した。内容は研究所の運営状況や調査・研究の状況、研究者や学生による

利用状況等、助成研究や研究員募集のお知らせなどで、下記の対象に電子メールで配信している。

配信先：財団役員、財団評議員、財団職員、高知県庁関連機関、環境省関連機関、大月町関連機関、漁業協同組合、寄附をいただいた方々、研究所利用者 等

#### (5) 啓発イベント等の開催

##### ○竜串産卵観察会

主 催：NPO 竜串観光振興会・黒潮生物研究所

期 日：平成 22 年 8 月 3 日

場 所：海のギャラリーおよび竜串湾爪白地先海域（高知県土佐清水市竜串）

内 容：サンゴの繁殖生態に関する講演および海域での産卵観察

参加者：一般 約 10 名

##### ○第 9 回黒潮生物研究所サマースクールーきみも小さな研究者ー

主 催：黒潮生物研究所・大月町教育委員会

後 援：高知県・高知県教育委員会・愛媛県教育委員会・大月町

期 日：平成 22 年 8 月 6～8 日（2泊3日）

場 所：大月町西泊 黒潮生物研究所

参加者：高知県幡多地域、愛媛県南予地域の小学 4～6 年生 44 名

主なプログラム：海水浴、自然のものを使った工作、磯の生き物しらべ、西泊ちよんがりクイズラリー、飯盒炊さん、テントで宿泊、肝だめし、キャンプファイアー 等

##### ○竜串リーフチェック

主 催：NPO 竜串観光振興会・黒潮生物研究所

期 日：平成 22 年 11 月 6～7 日

場 所：海のギャラリーおよび竜串湾爪白地先海域（高知県土佐清水市竜串）

内 容：サンゴの生態、海域保全活動に関する講演、海域でのモニタリング調査（リーフチェック）の実施

対 象：一般参加者およびスタッフ（12 名）

##### ○四国海の守り人交流会「四国の海はいま・・・」

主 催：財団法人黒潮生物研究財団

後 援：環境省中国四国地方環境事務所・高知県・高知新聞社・NHK 高知放送局

期 日：平成 22 年 12 月 18 日

場 所：高知県男女共同参画センター「ソーレ」（高知県高知市旭町）

内 容：話題提供「物部川での森づくり水づくり」

環境活動支援センターえこらぼセンター長 兼松方彦

四国太平洋岸で海域の環境活動を行っている 18 団体から団体の活動紹介

来場者全員による意見交換

参加者：四国各地の 18 団体を含む 84 名

#### (6) 教育機関への協力

##### ○大月町立 大月小学校 1 年生自然学習（1 年生）

期 日：7月13日

場 所：黒潮生物研究所、研究所前の浜

内 容：大月小学校の学習プログラム。自然に親しむことを主目的に行われた  
プログラム名「おおつき海クイズ」

#### ○土佐清水市立 三崎小学校 総合的な学習の時間（5年生）

期 日：7月1日 講義「海と生きもの サンゴと海の生きものを学ぼう！1」

7月27日 スノーケリング体験「海と生きもの サンゴと海の生きものを学ぼう！2」

場 所：三崎小学校・爪白海岸

内 容：平成19年度から継続して実施している、竜串自然再生における「環境学習の推進」のモデル的な取り組み。

#### ○愛南町立 内海中学校 総合的な学習「海学習」（3年生）

期 日：6月30日 事前学習「足摺宇和海の海や生き物、モニタリング手法」

7月6日 須ノ川海岸においてモニタリング実習

9月22日 愛媛県愛南町須ノ川海岸～塩子島周辺でロングツーリング&モニタリング調査

場 所：内海学校・愛南町内海海域

内 容：総合的な学習の一環としてシーカヤックの操作やスノーケリング技術の習得を目的に行っていた「海学習」に、平成21年度から中学校の近隣に広がるサンゴ群集保全のためのモニタリング活動を組み合わせた取り組み。10月に名古屋で開催されたCOP10関連野外展示イベント「生物多様性交流フェア」、12月18日に高知市で開催された当財団主催イベント「四国海の守り人交流会」にも参加。

#### ○大月町立 大月中学校 職場体験（3年生3名）

期 日：7月7～8日

場 所：黒潮生物研究所

内 容：中学3年生3名が、西泊の海藻調べ、海洋生物の標本収集及び管理についてなど研究所の仕事を体験

#### ○土佐塾中学校 修学旅行勉強会

期 日：9月30日、10月6日

場 所：足摺岬パシフィックホテル

内 容：中学2年生の修学旅行において、高知県の海岸環境と海洋生物に関する講義「のぞいてみよう！おらんくの海の中」を行った

#### ○高知県立 四万十高校 自然環境コース「森と川と海」（1年生）

期 日：1月20～21日

場 所：黒潮生物研究所

内 容：講義「四国西南部の海と海域保全活動」と野外実習「夜磯を楽しもう」

### （7）その他の機関・団体等への協力

#### ○足摺宇和海保全連絡協議会

内 容：足摺宇和海国立公園及び周辺海域において、環境保全に取り組んでいる多様な主体の連携を推進し、活動を支援することを目的に平成20年6月に設立された「足摺宇



和海保全連絡協議会」は、主にメーリングリストと1年に1~2回開催される総会により、海域全体のサンゴやサンゴ食害生物の現状、各地の保全活動の状況を共有し、保全活動の方針について協議している。平成23年3月末現在で48の機関・団体・個人が参加している。



6月9日：平成22年度総会

10月：COP10関連屋外展示イベント「生物多様性交流フェア」出展

12月18日：当財団イベント「四国海の守り人交流会」に参加

### ○竜串自然再生協議会

高知県土佐清水市竜串湾の衰退したサンゴ群集の再生を目指す取り組み。平成22年度当初、研究所は協議会委員、岩瀬は協議会会長代理、中地は中地が実施計画作成部会 部会長代理として自然再生に取り組んできたが、平成22年度協議会（平成23年2月9日）において岩瀬が協議会会長に、岩瀬と中地が幹事会委員



に選出された。また、黒潮生物研究財団は環境省から海域調査業務を請け負っている。

主な活動：協議会・技術支援委員会・実施計画作成部会・ワーキンググループ等への参加、三崎小学校における環境学習（総合的な学習）への協力、リーフチェック in 竜串への協力（チームサイエンティスト）、竜串サンゴ産卵観察会への協力、オニヒトデ駆除（竜串観光振興会・みんなの海を育てる会）への協力など。請負業務は以下の活動から除いてある。

7月1日：土佐清水市立三崎小学校環境学習「海と生きもの サンゴと海の生きものを学ぼう！」

7月27日：土佐清水市立三崎小学校環境学習

スノーケリング体験「海と生きもの サンゴと海の生きものを学ぼう！」

10月：COP10関連屋外展示イベント「生物多様性交流フェア」出展

11月6~7日：竜串 Reef Check

12月16日：新型水質調査機器 AUV 試験

12月18日：当財団イベント「四国海の守り人交流会」に参加

1月28日：幹事会準備会

2月8~9日：専門家技術支援委員会

2月9日：第6回自然再生協議会

3月15日：第1回幹事会

### ○竹ヶ島海中公園自然再生協議会

徳島県海陽町竹ヶ島海中公園地区のシンボルである美しい緑色のエダミドリイシが衰退し、内湾生の強いカワラサンゴに置き換わっている状況を元に戻そうとする自然再生の取り組み。岩瀬が専門委員、研究所が協議会委員として参加。徳島県から委託を受けているコンサルタント会社から業務の一部を再委託されている。



主な活動：協議会・専門委員会等への参加、リーフチェック in 穴喰への協力（チームサイエンティスト）、エダミドリイシとカワラサンゴの競争に関するフィールド実験の実施、環境教育活動への協力など。委託業務は以下の活動から除いてある。

- 5月22～23日：Reef Check in 穴喰（NPO あど未来主催）
- 10月：COP10 関連屋外展示イベント「生物多様性交流フェア」出展
- 11月23日：エダミドリイシ・カワラサンゴ入替移植実験データ採取
- 1月21日：専門委員会
- 1月24日：エダミドリイシ・カワラサンゴ入替移植実験データ採取
- 3月2日：専門委員会・竹ヶ島海中公園自然再生協議会

#### ○足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会

環境省が組織しているパークボランティアメンバーの会。  
当財団からは、岩瀬、中地、田中がメンバーに登録されており、活動及び支援をしている。

- 5月14日：オニヒトデ駆除（西泊）
- 7月10日：総会
- 8月14日：オニヒトデ駆除&モニタリング（樫西海岸）
- 9月11日：イベント「第20回コーラル&フィッシュウォッチング」
- 9月12日：オニヒトデ駆除&モニタリング（泊浦）
- 10月：COP10 関連屋外展示イベント「生物多様性交流フェア」出展
- 12月18日：当財団イベント「四国海の守り人交流会」に参加
- 3月26日：オニヒトデ駆除&モニタリング（尻貝）および事業計画打合せ



#### ○海辺の探索ガイド養成講座

主催：香南市地域雇用創造協議会  
期日：6月29日  
場所：香南市夜須町手結 香南市マリンスポーツ施設  
対象：香南市民  
内容：磯の観察会・スノーケリング観察会の講師を養成する講座  
協力内容：講師の派遣

#### ○海の学校 in 牟岐大島

主催：徳島県職員労働組  
期日：7月18-19日  
場所：徳島県牟岐町大島  
参加者：徳島県職員とその家族（10家族22人）  
内容：海の自然観察や海岸で拾ったものを使った工作  
協力内容：講師の派遣

#### ○夜須生き物観察会

主催：NPO 法人YASU海の駅クラブ  
期日：8月10日  
場所：香南市夜須町手結 大手の浜

参加者：一般（約 10 名）  
内 容：磯の生き物観察会  
協力内容：講師の派遣

#### ○土佐清水市観光ガイドレベルアップ研修会

主 催：土佐清水市観光ボランティア会  
期 日：10 月 12 日  
場 所：えぶりでいキッチン 2F（高知県土佐清水市中央町）  
参加者：土佐清水市観光ボランティア会メンバー等（約 25 名）  
内 容：講演  
協力内容：講師の派遣

#### ○全国生涯学習フォーラム高知大会 まなびピア高知 2010 環境フォーラム

主 催：全国生涯学習フォーラム高知大会実行委員会  
後 援：7 府省庁、マスコミ 15 社、1 社団  
期 日：11 月 21 日  
場 所：黒潮町入野 ふるさと総合センター  
内 容：県下 4 ヶ所で開催されたテーマ別フォーラム（環境フォーラム・地域再生フォーラム・地域コミュニティフォーラム・人材育成・キャリア教育フォーラム）のうち、黒潮町入野の会場で展示された高知の自然環境を紹介するパネルの原稿の一部を執筆した。なお、同稿は冊子「高知の自然環境」として会場で配布された。

#### ○珊瑚がサンゴを救う！SAVE coral reefs プロジェクト 2010

主 催：Sea Proof  
共 催：壱番街商店街振興組合・すばる会  
期 日：11 月 27 日  
後 援：高知県・高知商工会議所・  
日本珊瑚商工協同組合  
場 所：高知市はりまや町帯屋町商店街  
内 容：造礁サンゴ保護育成基金の贈呈  
記念講演「宝石珊瑚と造礁サンゴ」  
トークイベント 秋吉久美子・岩瀬文人  
パネル資料展示



#### ○幡多の研究発表会「はたのおと」

主 催：持ち寄り地図ネットワーク・魚と山の空間生態研究所・宿毛市  
後 援：法政大学山岡研究室・高知大学理学部・高知西部 NPO 支援ネットワーク・黒潮生物研  
究所・黒潮実感センター・日本野鳥の会高知・四万十楽舎・四万十高校・Swan テレビ・  
竜串ダイビングセンター  
期 日：2 月 11 日  
場 所：宿毛文教センター  
内 容：幡多を訪れて行われた研究 6 件、幡多に住み地元を探求する研究 8 件の紹介で講演

#### ○サンゴ保全・再生シンポジウム～ふたたびサンゴが広がる海へ～

主 催：環境省中国四国地方環境事務所

期 日：3月19日

場 所：エルおおさか5階視聴覚室

定 員：100名（無料）→84名参加

内 容：基調講演「サンゴはすごい！でもサンゴ礁は危機」

東京工業大学 本川達雄

パネルディスカッション「ふたたびサンゴが広がる海へ」  
コーディネーター：内田紘臣

パネリスト：西平守孝・藤原秀一・岩瀬文人・中村良太

#### (8) 参加団体等

財団、研究所あるいは職員は以下の団体に参加している。

- ・日本サンゴ礁学会（財団）
- ・日本動物学会（今原）
- ・日本生物地理学会（今原）
- ・日本動物分類学会（岩瀬・今原）
- ・日本藻類学会（田中）
- ・日本応用藻類学会（田中）
- ・日本地質学会（目崎）
- ・NPO 法人日本ウミガメ協議会（財団）
- ・ウミウシクラブ（水産無脊椎研究所）（今原）
- ・日本刺胞動物等談話会（NCB）（岩瀬・今原・目崎）
- ・日本造礁サンゴ分類研究会（岩瀬・目崎）
- ・jfish（クラゲメーリングリスト）（今原）
- ・大阪湾海岸生物研究会（今原）
- ・南紀生物同好会（岩瀬・今原）
- ・土佐生物学会（岩瀬・目崎）
- ・全日本博物館学会（今原）
- ・竜串自然再生協議会（財団）
- ・竹ヶ島海中公園自然再生協議会（財団）
- ・黒潮実感センター友の会（財団）
- ・NPO 法人環境の杜こうち（財団）
- ・四国生物多様性ネットワーク（財団）
- ・足摺宇和海保全連絡協議会 事務局（研究所）
- ・高知県地球温暖化防止県民会議（財団）
- ・八重山サンゴ礁保全協議会（岩瀬）
- ・紀伊半島ウミガメ情報交換会（岩瀬）
- ・遊亀会（財団）
- ・足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会（岩瀬・中地・田中）
- ・NPO 法人あど未来（岩瀬）



## (9) 委員・役員等就任

平成 22 年度には財団職員が以下の委員・役員等に就任した。

- ・環境省モニタリングサイト 1000 サンゴ礁調査検討委員 (岩瀬)
- ・サンゴ礁生態系保全行動計画フォローアップ会議委員 (岩瀬)
- ・農林水産省環境相談員 [登録番号: 39013] (岩瀬)
- ・全漁連環境生態系技術サポート専門家 (岩瀬)
- ・無脊椎動物の標本データベースの作成事業 (JST 委託研究) 共同研究者 (今原)
- ・和歌山県教育史編纂委員会 (和歌山県教育委員会) 執筆委員 (今原)
- ・国立科学博物館外部委員 (今原)
- ・高知県文化環境アドバイザー [分野: 自然・環境] (岩瀬)
- ・竜串自然再生協議会 会長代理→会長・技術アドバイザー・幹事会メンバー (岩瀬)  
幹事会メンバー (中地)
- ・竹ヶ島海中公園自然再生協議会 専門委員 (岩瀬)
- ・NPO 法人黒潮実感センター 理事 (岩瀬)
- ・NPO 法人日本ウミガメ協議会 監事 (岩瀬)
- ・足摺宇和海保全連絡協議会 会長 (岩瀬)
- ・幡多地域大学推進協議会 委員 (岩瀬)
- ・高知県西南地域 海のエコシステム創出協議会 委員 (岩瀬)
- ・足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティア (岩瀬・中地・田中)
- ・大月町体験型観光受入研究会 副会長 (中地)
- ・大月町イベント実行委員会役員 (中地・田中)
- ・地域の先生 (大月小学校人材バンク) (岩瀬・中地・田中・目崎)
- ・西泊地区 役員 (岩瀬・中地)

## (10) マスコミ

### ○ラジオ番組への出演

- 8月30日 朝日放送ラジオ「おはようパーソナリティ道上洋三」出演:財団の活動など(岩瀬)
- 11月22日 高知放送「みんなのラジオ」電話出演: COP10の報告(佐藤)

### ○新聞への掲載

《一般記事》記事本文中に「黒潮生物研究所」あるいは「黒潮生物研究財団」があるもの  
《連載》海からの伝言『大月発 くろしお便り』については「6 業績」の項に記載

- 4月13日 中国新聞 朝刊 ニホンアワサンゴ群生地 周防大島沖が「世界最大級」 黒潮生物研  
現地調査で見解
- 4月13日 東京新聞 夕刊 山口沖ニホンアワサンゴ 『世界最大』お墨付き
- 6月8日 愛媛新聞 朝刊 海が教室 カヤック満喫 愛南・内海中 体験授業実施
- 6月11日 愛媛新聞 朝刊 オニヒトデ駆除 09年度県内 286匹 足摺宇和海保全協
- 7月20日 愛媛新聞 朝刊 中学生がサンゴ調査 愛南・須ノ川 専門家と連携 種類や分布記録
- 8月2日 徳島新聞 朝刊 千年サンゴに新たな天敵、南方系巻き貝が繁殖 地元ダイバー、8月  
中旬に駆除へ

- 8月10日 高知新聞 朝刊 サンゴ回復の兆し 県西南の海 オニヒトデ 8400匹、巻き貝 9万個駆除 保全活動実る
- 8月14日 南日本新聞 朝刊 国内初の繁殖に成功／奄美などに生息するサンゴ「ミナミウミサボテン」＝鹿児島市・かごしま水族館、協会が表彰
- 8月26日 愛媛新聞 朝刊 タイマイ 愛南海中散歩 希少種 毎日スイスイ
- 9月4日 読売新聞 大阪朝刊 珍しい四角形のヒトデ 遺伝子異常？ 大月の黒潮生物研で展示＝高知
- 9月11日 愛媛新聞 朝刊 海中ゆらり 命のダンス 愛南 「白化」に負けずサンゴ産卵
- 9月22日 中国新聞 朝刊 周防大島沖のニホンアワサンゴ 放出時の幼生に褐虫藻 由宇のミクロ生物館撮影
- 9月23日 愛媛新聞 朝刊 愛南サンゴ異変 大規模な白化現象 猛暑で海水温上昇
- 9月26日 愛媛新聞 朝刊 のんびり ゆらゆら タコクラゲ 御荘湾で遊泳 三瓶湾でも大量確認
- 9月30日 愛媛新聞 朝刊 サンゴ保全 世界へ発信 愛南・内海中の生態調査活動 来月名古屋 COP10 会場で展示
- 10月26日 中国新聞 朝刊 ニホンアワサンゴ 館内飼育で幼生着生 周防大島・なぎさ水族館
- 10月31日 共同通信 サンゴの天敵、酢で撃退 オニヒトデに水中注射
- 11月1日 高知新聞 朝刊 オニヒトデ 酢酸で駆除 黒潮研（大月町）が新方法発見 岡山理大と共同研究 自然に解体 効率よく安全
- 11月1日 新潟日報 夕刊 [豆らんぶ]
- 11月1日 沖縄タイムス 朝刊 オニヒトデ駆除に酢酸／水中注射 1個体4円／岡山理科大など水槽実験で確認
- 11月1日 愛媛新聞 朝刊 サンゴの天敵 酢で退治 オニヒトデに注射 高い効果 高知の研究所など
- 11月1日 東京新聞 朝刊 オニヒトデに酢 サンゴの天敵退治 岡山理科大など「水中注射効果」
- 11月1日 秋田魁新報 朝刊 サンゴの天敵・オニヒトデに酢注射が効果
- 11月1日 岩手日報 朝刊 オニヒトデ駆除 酢注射が効果的 岡山理科大研究
- 11月2日 宮崎日日新聞 朝刊 サンゴの天敵／オニヒトデ駆除に酢／岡山理科大など／水中で注射「効率的」
- 11月4日 高知新聞 朝刊 『社説』 オニヒトデ駆除 目からうろこの発見だ
- 11月7日 高知新聞 朝刊 教えて！にゅーすけ 『週間リポート＋クイズ』（10月31日～11月6日）
- 11月7日 北海道新聞 オニヒトデ水中注射に効果 サンゴの天敵 酢で退治
- 11月12日 中国新聞 朝刊 周防大島沖のニホンアワサンゴ群生地 「海域公園」指定へ加速 国が視察
- 11月19日 山陽新聞 朝刊 サンゴ食害 深刻化 オニヒトデ 酢酸で駆除 岡山理科大グループ開発 「低コストかつ安全」
- 11月25日 中国新聞 朝刊 オニヒトデ 酢酸注射で駆除 岡山理科大など研究 低コスト・周辺影響なし
- 11月28日 高知新聞 朝刊 珊瑚で日本女性の美 県内加工業者 高知市で企画 秋吉久美子さんトーク

- 12月15日 高知新聞 朝刊 サンゴの大敵退治に期待 土佐清水沖 オニヒトデ 258 匹に酢酸注射
- 12月15日 高知新聞 朝刊 オニヒトデ撃退だ 土佐清水沖で注射実験開始
- 12月15日 愛媛新聞 朝刊 海の花畑 復活 愛南・須ノ川沖 白化現象ほぼ解消
- 12月19日 高知新聞 朝刊 四国の海守ろう 高知市で18団体交流会 保全活動課題学ぶ
- 12月27日 高知新聞 朝刊 『2010年 支社局が選ぶ重大ニュース』（下） 豊ノ島関快進撃に沸く 砂州消失は県工事原因
- 1月10日 中国新聞 朝刊 命のゆりかご 瀬戸内の多様な生態系 <7> 希望のサンゴ
- 1月16日 毎日新聞 地方版 ひと交差点：周防大島のニホンアワサンゴ確認、藤本正明さん
- 2月6日 朝日新聞 大阪地方版 幡多の文化や自然、研究者14人が発表 11日、宿毛文教センター／高知県
- 3月5日 琉球新報 朝刊 サンゴ1072標本を目録に／黒島研究所 259種、3年かけ作成／竹富

## 5 業績（ゴチック体は財団職員）

### （1）著作

#### ○黒潮生物研究財団紀要“Kuroshio Biosphere” Vol. 7, March 2011

- ・中野理枝，高知県大月町西泊海域から記録された後鰓類. pp. 1-35, 20 pls.  
(Rie NAKANO, Opisthobranchs (Mollusca: Gastropora) from Nishidomari, Otsuki, Kochi Prefecture, Japan. pp. 1-35, 20 pls.)
- ・中務裕子・土井敏男・久保田信，ウリクラゲ *Beroe cucumis* Fabricius（有櫛動物門、無触手綱、ウリクラゲ目）の幼若個体の形態と行動. pp. 37-40, 1 pl.  
(Yuko NAKATSUKASA, T. DOI, S. KUBOTA, Morphology and behavior of young individual of *Beroe cucumis* Fabricius (Ctenophora, Atentaculata, Beroida). pp. 37-40, 1 pl.)
- ・Shin KUBOTA, New distribution patterns of green fluorescence in small Hydromedusae. pp. 41-43, 1 pl.
- ・Shin KUBOTA, Green fluorescence in young individual(s) of Cubomedusa, Scyphomedusa and Ctenophora. pp. 45-46, 1 pl.

#### ○黒潮生物研究財団機関誌「CURRENT」

##### Vol. 11, no. 1 [通巻 40 号]（平成 22 年 4 月 25 日発行）

表紙：ビシャモンエビ	中地シュウ	.....	1
橘浦におけるウニ除去による藻場造成試験	田中幸記	.....	2-3
黒島周辺海域のスポットチェックの結果；2009 年度	目崎拓真・亀田和成	...	4-5
海に漂いながら考えたこと	佐藤崇範	.....	6
サンゴの移植について ②移植の歴史 その 2 世界最初の移植の記録	岩瀬文人	.....	7
タンポポ調査	S.N.	.....	8

##### Vol. 11, no. 2 [通巻 41 号]（平成 22 年 7 月 25 日発行）

表紙：スベスベマンジュウガニ	中地シュウ	.....	1
平成 21 年度における足摺宇和海国立公園海域のオニヒトデ駆除状況について	中地シュウ	.....	2-3
徳島県牟岐町大島の「千年サンゴ」に発生したトゲレイシダマシ			
およびクチムラサキサンゴヤドリによる食害とその対策	岩瀬文人	.....	4
第 2 回アジア太平洋サンゴ礁シンポジウムに参加して	岩瀬文人	.....	5
大月小学校 1 年生の自然学習	中地シュウ	.....	8

##### Vol. 11, no. 3 [通巻 42 号]（平成 22 年 10 月 25 日発行）

表紙：ジャノメナマコ	中地シュウ	.....	1
2010 年西泊地先海域の造礁サンゴの産卵状況	目崎拓真	.....	2-3
第 4 回東アジア国際生態学会（EAFES）2010 に参加して	田中幸記	.....	4
生物多様性交流フェアに参加しています！	佐藤崇範	.....	5
珊瑚網で標本集め	中地シュウ	.....	6

##### Vol. 11, no. 4 [通巻 43 号]（平成 23 年 1 月 25 日発行）

表紙：マンジュウイシ	中地シュウ	.....	1
四国海の守り人交流会「四国の海はいま…」の開催	岩瀬文人	.....	2-3



四国太平洋岸のダイバーに対するサンゴ保全の意識調査	佐藤崇範	..... 4-5
さぎっちょの焦げた餅	中地シュウ	..... 6

#### ○原著（査読）論文

- ・渡邊美穂・岩瀬文人・横地洋之, 2010. 四国南西海域の高緯度サンゴ群集における造礁サンゴ幼生加入の季節変化. 日本サンゴ礁学会誌, 11(1): 73-81.
- ・山崎敦子・渡邊 剛・岨 康輝・中地シュウ・山野博哉・岩瀬文人, 2010. 高知県竜串湾に生息する造礁性サンゴ骨格を用いた温帯域の古環境復元. 日本サンゴ礁学会誌, 11(1): 91-107.
- ・安芸浩資・中野 晋・岩瀬文人, 2010. サンゴの初期成長量を考慮した再生計画の効果評価手法について. 土木学会論文集 B2(海岸工学), 66(1): 1331-1335.
- ・岡田直也, 中野 晋, 安藝浩資, 岩瀬文人. 2010. 竹ヶ島に生息するエダミドリイシの増殖育成における経過報告. 土木学会四国支部技術研究発表会講演概要集, 16: 383-384.
- ・ Y. Nozawa, K. Tanaka, J.D. Reimer, 2011. Reconsideration of the surface structure of settlement plates used in coral recruitment studies. Zoological Studies, 50(1): 53-60.

#### ○原著（その他）

- ・ Y. Imahara, 2010 (in print). Preliminary report on the alcyonacean and pennatulacean octocorals from the Izu and Ogasawara Islands. Memoirs of the National Science Museum, (47).
- ・ 広瀬慎美子・目崎拓真・野澤洋耕・磯村尚子, 2010. ミーティングレポート: 日本産イシサンゴ類の有性生殖について語ろう. 日本サンゴ礁学会誌. 12; 1-6.
- ・ 亀田和成・目崎拓真, 2011. NPO 法人日本ウミガメ協議会付属黒島研究所収蔵資料目録 造礁サンゴ標本. NPO 法人日本ウミガメ協議会付属黒島研究所（沖縄県竹富町）. 141pp.
- ・ 佐藤崇範・小俣珠乃・鈴木淳・簗島佳代・能丸恵理子・村上明男・村山昌平・川幡穂高・丸山正. 2010. ハマサンゴの光制御下での長期飼育実験 ―骨格炭素同位体比と共生藻光合成の相関解析―. JAMSTEC Report of Research and Development, 11:44-58.
- ・ 浪崎直子・山野博哉・鈴木倫太郎・大堀健司・翁長均・岸本多美子・佐川鉄平・町田佳子・安村茂樹・佐藤崇範・嶋谷隆・柴田剛・土川仁・宮本育昌・春川京子・平手康市・古瀬浩史・鋒山謙一・山中康司・我妻 亨. 2010. 海をフィールドにした市民調査の可能性 - 「日本全国みんなで作るサンゴマップ」プロジェクトの2年間の成果と展望-. 海の研究, 20(1):37-46.

#### ○その他の著作

- ・ 岩瀬文人, 2010.11. 高知県の沿岸. in 高知県の自然環境. 全国生涯学習フォーラム高知大会 まなびピア 2010 環境プロジェクト委員会編
- ・ 岩瀬文人, 2010.01. 高知の海の温暖化. 高知の海の温暖化パネルシリーズ 1.
- ・ 田中幸記, 2010.01. 磯焼けによる藻場の減少. 高知の海の温暖化パネルシリーズ 2.
- ・ 田中幸記, 2010.01. ホンダワラ類の藻場における熱帯種の分布拡大. 高知の海の温暖化パネルシリーズ 3.
- ・ 目崎拓真, 2010.01. 造礁サンゴの分布拡大と種の変遷. 高知の海の温暖化パネルシリーズ 4.
- ・ 中地シュウ, 2010.01. オニヒトデの大発生. 高知の海の温暖化パネルシリーズ 5.
- ・ 目崎拓真, 2010.01. 高水温ともなうサンゴの白化現象. 高知の海の温暖化パネルシリーズ 6.
- ・ 岩瀬文人, 2010.01. 豪雨の影響. 高知の海の温暖化パネルシリーズ 7.

- ・神田 優, 魚類相の変化. 高知の海の温暖化パネルシリーズ 8.
- ・岩瀬文人, 2010.01. 漁業の変化. 高知の海の温暖化パネルシリーズ 9.
- ・岩瀬文人, 2010.01. 今後の予測と対策. 高知の海の温暖化パネルシリーズ 10.
- ・F. Iwase, T. Kimura, 2011 (in print). Restoration of a high latitude coral reef damaged by a landslide in Tatsukushi, Kochi, Japan. *in: Catchment management and coral reef conservation. (ed. C. Wilkinson & J. Brodie), Global Coral Reef Monitoring Network (Australia).*

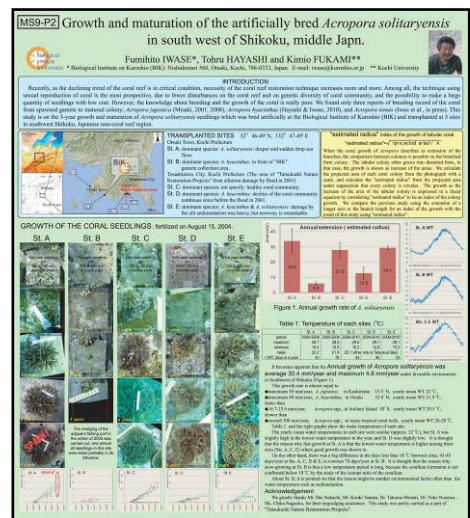
《新聞連載》海からの伝言『大月発 くろしお便り』（高知新聞 毎月1回金曜夕刊8面）

- ・2010.4.9. 脱藩サンゴ伝（目崎拓真）
- ・2010.5.14. 雑木林は宝物庫（岩瀬文人）
- ・2010.6.11. 沖の島で海藻探検（田中幸記）
- ・2010.7.9. 海に生きる星たち（中地シュウ）
- ・2010.8.13. 育て！ど根性サンゴ（佐藤崇範）
- ・2010.09.10. 蛍光ライトで赤ん坊探し（長谷川亮太（東海大学大学院））
- ・2010.10.8. 瀬戸内海にサンゴ！？（目崎拓真）
- ・2010.11.12. COP10 交流フェア見聞録 おいしい楽しい生物多様性の話（佐藤崇範）
- ・2010.12.10. 砂底の生き物たち（岩瀬文人）
- ・2011.1.14. 森と海が育むアオノリ（田中幸記）
- ・2011.2.25. 「ごみ」は貴重なお宝（中地シュウ）
- ・2011.3.25. 負けるなサンゴ！（目崎拓真）

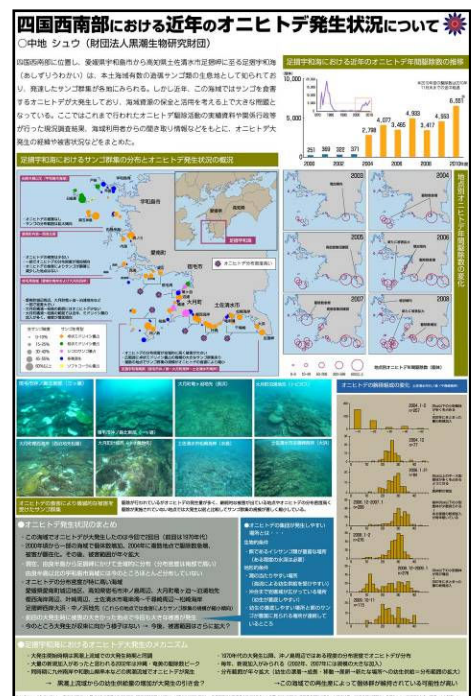
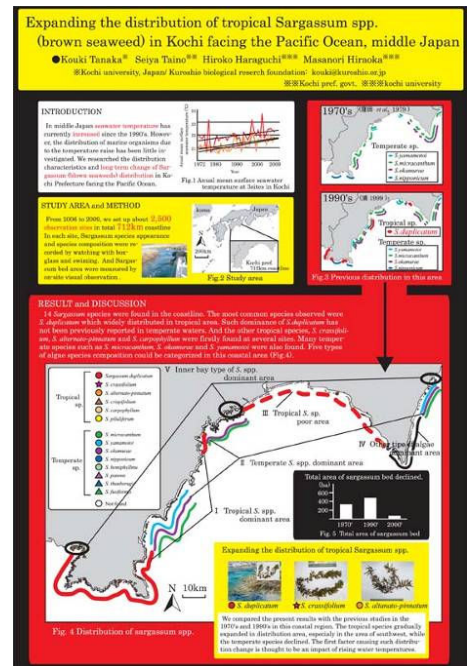
(2) 講演等

○学会等

- ・岡田直也・中野 晋・安藝浩資・岩瀬文人, 2010.05. 竹ヶ島に生息するエダミドリイシの増殖育成における経過報告. 土木学会四国支部技術研究発表会（徳島市）；口演発表
- ・F. Iwase, T. Hayashi, K. Fukami, 2010.06.20-24. Growth and maturation of the artificially bred *Acropora solitaryensis* in south west of Shikoku, middle Japan. The Second Asia Pacific Coral Reef Symposium (Phuket, Thailand); ポスター発表
- ・Yamano, H., Suzuki, R., Oohori, K., Onaga, H., Kishimoto, T., Sagawa, T., Machida, K., Yasumura, S., Satou, T., Shigiya, T., Tsuchikawa, M., Miyamoto, Y., Harukawa, K., Hirate, Y., Furuse, K., Hokoyama, K., Yamanaka, Y. and Wagatsuma T. 2010.6.20-24. Sango (Coral) Map Project Result achieved through two-year activities and future perspectives. The Second Asia Pacific Coral Reef Symposium (Phuket, Thailand)；口演発表
- ・田中幸記・目崎拓真・中地シュウ・中野松生・中野正夫, 2010.07.03. 高知県大月町におけるウニ除去とヒロメ *Undaria undarioides* を用いた藻場造成実験. 第9回日本応用藻類学会春季シンポジウム（東京都）；ポスター発表



- ・山崎敦子・渡邊 剛・角皆 潤・中地シュウ・山野博哉・岩瀬文人, 2010.09.07. 高知県竜串湾に生息する造礁性サンゴ骨格の窒素同位体比組成に与える黒潮流量の影響. 日本地球化学会(熊谷市); 口演発表
- ・K. Tanaka, S. Taino, H. Haraguchi, M. Hiraoka, 2010.09.13-17. The expanding distribution of tropical *Sargassum* spp. in Kochi, Japan. The 4th EAFES International Congress (Sangju, Korea); ポスター発表 (ポスター賞受賞)
- ・佐藤崇範・中地シュウ・田中幸記・目崎拓真・岩瀬文人, 2010.9.18-19. 地域コミュニティとの交流を通じた研究環境の強化 ～黒潮生物研究所の9年間の活動とこれから～. 地域環境学ネットワーク設立記念シンポジウム(大阪学院大学): ポスター発表
- ・岩瀬文人, 2010.10.02-04. 黒潮生物研究所で取り組んできたサンゴの増殖について. 日本刺胞動物等研究談話会(NCB)第6回大会(沖縄県西原町); 口演発表
- ・今原幸光, 2010.10.02-04. 相模灘調査で採集されたウミトサカ類等について. 日本刺胞動物等研究談話会(NCB)第6回大会(沖縄県西原町); 口演発表
- ・今原幸光, 2010.10.23. 北東太平洋のど真ん中で発見された巨大カツオノカンムリ等. Jfish(クラゲ研究会)平成22年度報告会(佐世保市); 口演発表
- ・安芸浩資・中野 晋・岩瀬文人, 2010.11.11. サンゴの初期成長量を考慮した再生計画の効果評価手法について. 第57回海岸工学講演会(京都市); 口演発表
- ・K. Tanaka, S. Taino, H. Haraguchi, M. Hiraoka, 2010.11.6-7. The expanding distribution of tropical *Sargassum* spp. and decline of *Sargassum* bed areas in Kochi, Japan. The 4th International Symposium on Kuroshio Science (Kochi, Japan); 口演発表
- ・中地シュウ, 2010.12.2-4. 四国西南部における近年のオニヒトデ発生状況について. 日本サンゴ礁学会第13回大会(つくば市); ポスター発表
- ・目崎拓真, 2010.12.2-4. 四国における造礁サンゴの分布; 熱帯種とは何か? 日本サンゴ礁学会第13回大会(つくば市); ポスター発表
- ・佐藤崇範, 2010.12.2-5. 非サンゴ礁域におけるサンゴ保全の意識調査 ～四国太平洋岸のダイバーを中心として～. 日本サンゴ礁学会第13回大会(つくば市); ポスター発表
- ・浪崎直子・山野博哉・鈴木倫太郎・土川仁・宮本育昌・



- 安村茂樹・大堀健司・古瀬浩史・佐藤崇範・鋒山謙一・翁長均. 2010.12.2-5. 日本全国みんなでつくるサンゴマップ -3年目の新機能「白化・産卵」コースの紹介-. 日本サンゴ礁学会第13回大会(つくば市); ポスター発表
- ・長谷川亮太・雨宮輝・加藤智也・松井一真・岩瀬文人・横地洋之, 2010.12.2-4. 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入 2004 - 2010. 日本サンゴ礁学会第13回大会(つくば市); ポスター発表
  - ・佐藤崇範, 2010.12.2-5. 自由集会「サンゴ礁保全について研究者はステークホルダーとどのように協働できるか ~社会は研究者に何をもとめているのか~」. 日本サンゴ礁学会第13回大会(つくば市); オーガナイザー
  - ・田中幸記・田井野清也・平岡雅規, 2011.03.26-28. 南方種ホンダワラ類が分布を拡大する高知県におけるガラモ場の群落構造. 日本藻類学会第35回大会(富山市); ポスター発表

#### ○依頼講演

- ・中地シュウ, 2010.05.10. 戸島周辺の海と生き物. 戸島公民館市民講座(宇和島市)
- ・岩瀬文人, 2010.05.22. リーフチェック調査法. リーフチェック in 穴喰(徳島県海陽町)
- ・中地シュウ, 2010.06.19. 四国西南部におけるサンゴ保全の取り組み-非サンゴ礁域での海域保全活動の一例-. BSAC 国際サンゴ礁保全会議(京都市)
- ・岩瀬文人, 2010.06.29. 海辺の自然観察を指導するには... 海辺の探索ガイド養成講座(香南市)
- ・岩瀬文人, 2010.06.29. スノーケリング講習法. 海辺の探索ガイド養成講座(香南市)
- ・岩瀬文人, 2010.06.29. 大手の浜のサンゴの観察 サンゴってどんな生き物? 海辺の探索ガイド養成講座(香南市)
- ・岩瀬文人, 2010.07.18. サンゴの再生について勉強しよう. 海の学校 in 牟岐大島
- ・岩瀬文人, 2010.10.06. サンゴ等海洋の生物多様性への取組状況紹介-竜串における自然再生と足摺宇和海保全連絡協議会の取り組み. 第2回生物多様性の保全に関する情報共有のための円卓会議(高知市)
- ・中地シュウ, 2010.10.12. サンゴきらめく足摺宇和海の魅力を伝えよう. 土佐清水市観光ガイドレベルアップ研修(土佐清水市)
- ・岩瀬文人, 2010.11.27. 宝石珊瑚と造礁サンゴ. 珊瑚がサンゴを救う! SAVE coral reefs プロジェクト 2010(高知市)
- ・田中幸記, 2010.11.27. 塩づくり. 四万十楽舎イベント「森川海つながり再発見 人編」(四万十市)
- ・田中幸記, 2010.11.27. 汽水域のスジアオノリ. 四万十楽舎イベント「森川海つながり再発見 海編」(四万十市)
- ・岩瀬文人, 2010.12.18. 黒潮生物研究財団の活動報告. 四国海の守り人交流会「四国の海はいま...」(高知市)
- ・中地シュウ, 2010.12.18. 足摺宇和海保全連絡協議会の活動報告. 四国海の守り人交流会「四国の海はいま...」(高知市)
- ・田中幸記, 2011.01.22. アオウミガメから見た高知県の海. 四国地区ウミガメ情報交換会(徳島市)
- ・岩瀬文人, 2011.02.04. 四国海の守り人交流会の開催. 第3回生物多様性の保全に関する情報共有のための円卓会議(高松市)

- ・岩瀬文人, 2011.02.11. 黒潮生物研究所でやっていること. 幡多の研究発表会「はたのおと」(宿毛市)
- ・中地シュウ, 2011.02.20. 蔦淵周辺の海の姿とその移り変わり. 蔦淵湾再生プロジェクト事業公開講座(宇和島市)
- ・田中幸記, 2011.02.21. 変わりゆく海藻の海～高知の海とこもぶちの海～. 蔦淵湾再生プロジェクト事業公開講座(宇和島市)
- ・岩瀬文人, 2011.03.19. 四国のサンゴ 保全と再生. サンゴ保全・再生シンポジウム～ふたたびサンゴが広がる海へ～(大阪市)

### (3) 調査報告書等

- ・香南市手結地区オニヒトデ分布状況調査報告書, 2010.05. 黒潮生物研究財団(香南市)
- ・平成22年度モニタリングサイト1000事業における四国南西部沿岸海域のサンゴ礁モニタリング業務報告書, 2011.02. 黒潮生物研究財団(自然環境研究センター・環境省)
- ・平成22年度竜串地区自然再生事業海域調査業務報告書, 2011.03. 中国四国地方環境事務所(黒潮生物研究財団)
- ・H22自竹ヶ島海中公園海陽自然再生事前調査成果報告書, 2011.03. 黒潮生物研究財団(ニタコンサルタント・徳島県)
- ・平成22年度マリンワーカー事業(オニヒトデ駆除手法調査事業)報告書, 2011.03. 黒潮生物研究財団(中国四国地方環境事務所)
- ・平成22年度マリンワーカー事業(足摺地域オニヒトデ等駆除事業)報告書, 2011.03. 黒潮生物研究財団(中国四国地区環境事務所)
- ・平成22年度足摺宇和海国立公園海域景観資質(サンゴ)調査業務報告書, 2011.03. 黒潮生物研究財団(環境省自然環境局国立公園課)
- ・平成22年度環境生態系保全活動モニタリング調査及び進行管理委託業務報告書, 2011.03. 黒潮生物研究財団(宿毛湾環境保全連絡協議会)

### (4) 研究所利用者の業績

#### ○助成研究

- ・岡本慶, 2011.01. 日本沿岸におけるアオウミガメ属 *Chelonia* の形態変異と保全に関する研究, 東京大学大学院修士論文.
- ・長谷川亮太, 2011. 四国西南海域における造礁サンゴ幼生加入の空間的変異. 東海大学大学院平成22年度修士論文.

#### ○研究所利用修士論文

- ・長谷川亮太, 2011. 四国西南海域における造礁サンゴ幼生加入の空間的変異. 東海大学大学院平成22年度修士論文(再掲)

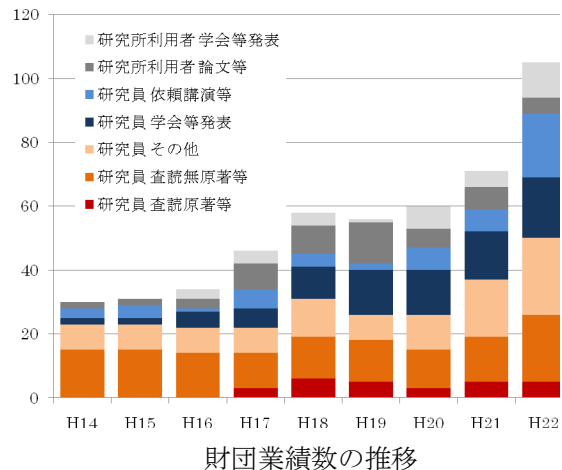
#### ○研究所利用卒業論文

- ・松井一真・雨宮輝・加藤智也, 2011. 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入—2010年. 東海大学海洋学部2010年度卒業論文
- ・金森咲季, 2011. 三者同居におけるハナハゼ *Ptereleotris hanae* ペアの行動観察—巣穴利用とペアボンド—. 東海大学海洋学部2010年度卒業論文

- ・高橋慶光, 2011. サンゴ及び小動物中のカロテノイドと食物連鎖の関係. 近畿大学農学部 2010 年度卒業論文

○学会等

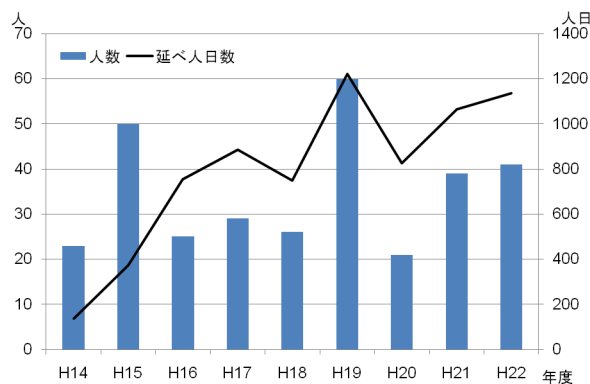
- ・ Kei Okamoto, M. Ishii, T. Ishihara, and N. Kamezaki, 2010.04.27-29, Occurrence of Black Turtles, *Chelonia mydas agassizii*, from the Green Turtle complex in the Feeding Ground around Japan. The 30th Annual Symposium on Sea Turtle Biology and Conservation (Goa, India).
- ・ Mari Yuutani, H. Mizuno, N. Kamezaki, 2010.04.27-29. External injuries and their distributions of wild loggerhead turtles. The 30th Annual Symposium on Sea Turtle Biology and Conservation (Goa, India).
- ・ M. Hirose, J. Scholz, S.F. Mawatari, M.H. Dick, 2010.08.04. Cheilostome Bryozoa from Sagami Bay: diversity and faunal changes over the past 130 years. The 15th Meeting of the International Bryozoology Association (Kiel, Germany)
- ・ 山崎敦子・渡邊 剛・角皆 潤・中地シュウ・山野博哉・岩瀬文人, 2010.09.07. 高知県竜串湾に生息する造礁性サンゴ骨格の窒素同位体比組成に与える黒潮流量の影響. 日本地球化学会(熊谷市); 再掲
- ・ 藤田純太・中山耕至・甲斐嘉晃・上野正博・山下洋, 2010.10.8-11. 両側回遊種ミズレヌマエビとヤマトヌマエビの地理的分布における黒潮の役割. 日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会(東京)
- ・ 岡本慶・亀崎直樹, 2010.10.9-10. 日本沿岸におけるアオウミガメとクロウミガメの形態比較. 第49回日本爬虫両棲類学会(横浜市)
- ・ 優谷真理・亀崎直樹, 2010.10.9-10. 日本近海に生息するアカウミガメとアオウミガメのサメ咬傷について. 第49回日本爬虫両棲類学会(横浜市)
- ・ 岡本慶・亀崎直樹, 2010.11.27-28. アオウミガメとクロウミガメ—形態は違うのか? 第21回日本ウミガメ会議(田原市)
- ・ 優谷真理・亀崎直樹, 2010.11.27-28. 外傷からみたアカウミガメとアオウミガメに対するサメの攻撃. 第21回日本ウミガメ会議(田原市)
- ・ 斉藤宏・石丸隆・灘岡和夫・渡邊敦, 2010.12.2-4. 可視・近赤外水中写真画像を用いたサンゴ健康度の季節変動モニタリング. 日本サンゴ礁学会第13回大会(つくば市)
- ・ 長谷川亮太・雨宮 輝・加藤智也・松井一真・岩瀬文人・横地洋之, 2010.12.2-4. 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入 2004 - 2010. 日本サンゴ礁学会第13回大会(つくば市); 再掲
- ・ 畠山えり子・横地洋之・矢富洋道・深見裕伸, 2010.12.2-4. 本邦沿岸に生息するエダミドリイシ *Acropora tumida* の遺伝的特性. 日本サンゴ礁学会第13回大会(つくば市)



## 6 研究所利用者

下記のとおり調査研究目的の研究所利用者があった。

研究職	7名	延べ	48	人日
大学教員	8名	延べ	67	人日
Post Doctor	3名	延べ	40	人日
大学院生	7名	延べ	304	人日
大学生	12名	延べ	663	人日
一般社会人	4名	延べ	15	人日
合計	41名	延べ	1,137	人日



研究所利用者数と延べ利用人日数の推移

平成22年度の研究所の利用者数は1,137人日で、昨年度に引き続き1,000人日を超えた。長期滞在者としては東海大学の大学院生1名と4年生3名が半年以上滞在于して修士研究および卒論研究をおこなった。その他、台湾中央研究院の研究者が21-24日間滞在于して資料収集を、また、東海大学の教員と学生が延べ21-28日滞在于して卒業研究およびその指導を行ったのが比較的長期の滞在だった。

利用者の所属の内訳は、

北海道大学	2名
東北大学	2名
東海大学	8名
静岡大学	2名
近畿大学	3名
岡山理科大学	4名
岡山大学	3名
高知大学	5名
琉球大学	1名
国内博物館・水族館等	3名
その他国内	5名
海外	3名
合計	41名

となっており、北は北海道大学、南は琉球大学まで9大学の30名、および大学以外に所属する11名の方々によって利用された。その中には台湾中央研究院に所属する海外の研究者3名が含まれている。

## 7 寄附等

当財団では以下の要領で一般に寄附金を募っている。

- 募集期間：随時
- 対象：当財団の活動にご賛同いただける個人・団体・法人
- 金額：金額は自由です。
- 免税措置：当財団は特定公益増進法人の認定を受けておりますので、ご寄附を行われた場合には、所得控除や損金算入など税法上の優遇措置がうけられます。
- 特典：1,000円以上ご寄附をいただいた方には、ご寄附をいただいた年度に発行する当法人機関誌「CURRENT」（季刊年4回発行）をお送りいたしております。また、10万円以上ご寄附をいただいた方には、学術誌「Kuroshio Biosphere」（年1回発行）もお送りいたしております。

平成22年度には、4法人、1団体、個人8名からご寄附をいただいた。

### ○ご寄附いただいた企業・法人・団体

大阪市 ステラケミファ株式会社 様  
東京都 株式会社東京久栄 様  
堺市 有限会社VIVO 間吾泰芳 様  
東京都 Diving Club アクアギフト 様  
松山市 愛媛大学スキューバダイビング部 様

### ○ご寄付いただいた個人

当財団 深田純子 理事長  
下関市 園山貴之 様  
須崎市 浦 吉徳 様  
大阪市 川畑なぎさ 様  
柏崎市 三浦正治 様  
奈良市 坂上吉一 様  
窪内楽恵 様  
大月町 お名前の公表を望まれない方

寄附金総額は 18,163,000円だった。謹んで御礼申し上げます。

### ○造礁サンゴ保護育成基金

この基金は、高知県の伝統産業である珊瑚製品に関わる事業者および業界団体の発意により、これらの事業者及び業界団体からの寄附金を元に、高知県の浅海に生息する造礁サンゴをはじめ、深海に生息する宝石珊瑚などのサンゴ類が永続的に生息し続け、それらを利用した文化・経済が持続的に発展することを目的として、財団法人黒潮生物研究財団が管理・運営してサンゴ類の保護育成に係る事業を実施するものとする。

平成22年度には、11月27日に高知市はりまや町商店街で開催されたイベント「珊瑚がサンゴを救う！SAVE coral reefsプロジェクト2010」において、この基金に対して一般の方々からの寄附も含め、160,100円の寄附金をいただいた。本基金の趣旨に則り、有意義な使途を検討している。

